表１－２－２　平成23年度国家公務員採用試験実施状況一覧

（その１）試験機関が人事院であるもの　（単位：人、倍）

試験の程度	試験の種類	申込者数（A）人	うち女性数	合格者数（B）人	うち女性数	倍率（A/B）倍
大学卒業等程度	Ⅰ種試験	27,567	8,567	1,390	274	19.8
	Ⅱ種試験	46,450	14,265	4,421	1,146	10.5
	国税専門官	19,616	6,183	1,916	570	10.2
	労働基準監督官	4,175	1,233	213	50	19.6
	法務教官	2,395	778	224	28	10.7
	航空管制官	1,609	498	76	30	21.2
	計	**101,812**	**31,524**	**8,240**	**2,098**	**12.4**
高等学校卒業程度	Ⅲ種試験	19,667	6,354	1,579	575	12.5
	皇宮護衛官	795	237	29	6	27.4
	刑務官	6,967	1,148	990	239	7.0
	入国警備官	1,597	457	52	15	30.7
	航空保安大学校学生	549	128	110	33	5.0
	海上保安大学校学生	625	108	69	11	9.1
	海上保安学校学生	3,064	498	311	68	9.9
	海上保安学校学生（特別）	7,292	1,308	612	167	11.9
	気象大学校学生	339	80	42	8	8.1
	計	**40,895**	**10,318**	**3,794**	**1,122**	**10.8**
合　計		**142,707**	**41,842**	**12,034**	**3,220**	**11.9**

（その２）試験機関が外務省であるもの　（単位：人、倍）

試験の程度	試験の種類	申込者数（A）人	うち女性数	合格者数（B）人	うち女性数	倍率（A/B）倍
大学卒業程度	外務省専門職員	635	337	40	16	15.9

（その３）総合計　（単位：人、倍）

試験の程度	申込者数（A）人	うち女性数	合格者数（B）人	うち女性数	倍率（A/B）倍
大学卒業等程度	102,447	31,861	8,280	2,114	12.4
高等学校卒業程度	40,895	10,318	3,794	1,122	10.8
総合計	**143,342**	**42,179**	**12,074**	**3,236**	**11.9**

⑶　採用試験の方法

採用試験は、受験者がそれぞれの試験の対象となる官職の職務を遂行する上で発揮することが求められる能力及び適性を有するかどうかを相対的に判定することを目的としている。そのため、官職の職務遂行に求められる知識、技術、その他の能力及び適性を検証する方法として、基礎能力試験、専門試験、人物試験等の試験種目のうちから、それぞれの採用試験に効果的な試験種目を組み合わせて実施している。

平成24年度においては、採用試験体系の見直しに伴い、試験種目の内容の変更や新たな試験種目の導入などを行った。具体的には、筆記試験のうちの多肢選択式試験では、従前の教養試験を、国家公務員として必要な基礎的な知能及び知識をみるための「基礎能力試験」に改めた。また、記述式試験では、政策の企画立案に必要な能力、総合的な判断力及び思考力等をみるための「政策論文試験」、幅広い教養や専門的知識を土台とした総合的な判断力及び思考力をみるための「総合論文試験」などを導入した。さらに、筆記以外の試験では、課題に対するグループ討議を通してプレゼンテーション能力やコミュニケーション力等をみるための「政策課題討議試験」、企画力、建設的な思考力及び説明力等をみるための「企画提案試験」などを導入した。

こうした試験種目のうち、専門性の高い試験種目の内容については、試験専門委員として委嘱した大学の教員及び専門知識を有する各府省の職員等とともに検討を重ねた上で決定している。

また、採用試験の実施後は、その結果分析を通じて試験方法の検討を行うほか、必要に応じて各学校における教科内容の実態調査を実施するなど、採用試験の妥当性、信頼性を高めるよう常に研究を行っている。

⑷　実施状況

ア　概況

平成24年度に実施した採用試験の状況は、表１－２－１に示したとおりである。

総合職試験（院卒者試験）は、対象となる官職に必要とされる専門知識等に応じて９の区分試験に分けて実施した。同様に総合職試験（大卒程度試験）は11区分、一般職試験（大卒程度試験）は10区分、法務省専門職員（人間科学）採用試験は７区分、労働基準監督官採用試験は２区分、一般職試験（高卒者試験）は４区分、一般職試験（社会人試験（係員級））、入国警備官採用試験及び航空保安大学校学生採用試験は２区分、刑務官採用試験は６区分、海上保安学校学生採用試験は４区分の試験に分けて、それぞれ実施した。

さらに、一般職試験（大卒程度試験）のうち「行政」の区分試験、一般職試験(高卒者試験)のうち「事務」､「技術」の２区分試験、一般職試験（社会人試験（係員級））のうち「事務」の区分試験、刑務官採用試験及び税務職員採用試験については、合格者の地域的偏在を防ぎ、全国各地に所在する官署からの採用に応じられるようにするため、地域別の試験に分けて実施した。

人事院及び外務省の実施する全試験（22種類）の申込者総数は155,231人であり、前年度に実施した全試験（15種類）の申込者総数である143,342人に比べると11,889人（8.3%）の増加となった。このうち、大学（大学院）卒業程度の試験（11種類）は104,027人であり、前年度に実施した試験（６種類）に比べると1,580人（1.5%）増加した。また、高等学校卒業程度の試験（10種類）では、51,204人であり、前年度に実施した試験（８種類）に比べると10,309人（25.2%）の増加となった。

人事院及び外務省の実施する全試験の合格者総数は10,303人であり、前年度に比べると1,771人（14.7%）の減少となった。

申込者数が合格者数の何倍かを示す比率（以下「倍率」という。）は、表１－２－１のとおりとなった。その内訳は、大学（大学院）卒業程度の試験が15.3倍（前年度12.4倍）、高等学校卒業程度の試験が14.7倍（前年度10.8倍）であり、いずれの試験も前年度を上回った。